

平成 27 年 7 月 18 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム
平成 27 年度第 7 回

邦、道ある時は・・・

本日の論語は憲問篇に入ります。先ほどの井澤幹事の素読は非常に良うございました。孔子と原憲の声の調子も変えて、抑揚もつけていました。その時の状況が分かっているのだと感じました。

原憲（字は子思）は孔子が特に見込んだ弟子で、孔子とはかなり年齢差がありますが、孔子が魯の国の大臣になった時、自分の家の取りまとめを十八歳の子思に任せています。単なる師匠と弟子の間柄を超えて、自分の後継者と見込んで育てようとしていることが強烈に表れています。そこら辺が良く見えていると、抑揚の付け方もちょっとずつ変わってくると思います。

皆さんはご自分の会社の中で、見込んで育てようとしている若者はいますか？ 本日の論語は、自分の後継者を想定しながら読むとよろしいでしょう。

ちなみに私自身に置き換えてみると、今年、シムックスを立ち上げて 40 年になります。今は執行役員を含めて全員が 30 代、40 代。私一人だけが平均年齢を押し上げています。私の実務から離れて十年経ちますが、その間、会社の屋台骨を揺るがすような事件事故が起きた時には責任をとって腹を切るというスタンスで進んで来ました。又、「どうにもなりません。どうしたら良いのでしょうか」と聞いてきた時には細かく教えるようにしておりました。

十年の間に、屋台骨を揺るがすような事件事故が数回起きました。私が前面に立って処理したものもありますが、最近は私が教えた通りに何とか処理しながら、若い役員たちだけでこなしています。順調にいつている時の経験だけでは心許ないけれども、マイナスの事件事故を体験したから、だいぶ若い役員が育ってくれたなという実感を今、持っています。その人間を伸ばそう、組織を伸ばそうと思うなら、自分が前面に出て処理したのでは人は育ちません。お互いに人を育てようではありませんか。

では解説を致します。

【一】憲 恥を問う。子曰く、邦 道有るときは、穀す。邦 道無きときに穀するは恥な

りと。

原憲が「恥とは、何ですか」と聞きました。

孔子が答えました。「道徳的に考えなさい。自分の国が道徳的で良い国だと思ったなら、正しい勤めをして給料を受け取るがよい。不道徳な国で給料を貰って働くのは恥だと思いなさい。」

自分の会社がまっとうな仕事をしているのであれば、相応の給料を貰ってよろしい。しかし詐欺集団のような、まっとうでない仕事をしているのであれば、不道徳な仕事をして給料を貰ってはいけない、と考えればよろしいでしょう。

孔子が自分の後継者と見込んだ原憲に、自分が死んだ後、この国がまともな道を実行しようとしているのであれば、お前は引き続きこの国に居て仕事をしなさい。そうでなかったら、他の国に亡命すれば良からうと教えています。実際、原憲は孔子が亡くなった後、37歳で衛に隠退しています。

それともう一つ、「邦道有るときは、穀す」という部分で、良い国であれば給料を貰うのは良いが、その分お前はきちんと仕事をしなさいと憲を諭しています。

仕事をしないで給料を貰う官僚が、世の中いかに多いことでしょうか。自分の貰っている給料がまっとうな金額かどうか、それすら考えないで当たり前だと思っている。小泉チルドレンで当選した新人議員が、「こんなに給料を貰っていいのか思った」とテレビで言っていました。貰い続けているうちに当たり前になってしまったようですね。自分が貰っている給料が相応であるかどうか、時々考えてみるのも良いでしょう。

【二】^{こく}克^{ぼつ}伐^{えん}怨^{よく}欲^{おこな}行^{もつ}われ^{じん}ざる^なをば、^{しい}以て^わ仁と^{もつ}為す^がべき^なかと。子曰く、^な以て^な難しと^な為すべし。
仁は^{じん}則^{すなわ}ち^{われし}吾知らざるなりと。

「克」は、誰かに勝ちたいと強く思う。「伐」は、威張りたいと思う。「怨」は、表面はニコニコしても内心は腹を立てて怨む。「欲」は、欲しいものがあったら手に入れて、そのうえ貪欲に欲しがる。

私が詩吟を習っている鉄砲洲神社の入り口に掲げてある額の言葉「威張るな 欲張るな 妬むな 怒るな」と同じです。だいたい人間の考えることは同じようですね。克・伐・怨・欲がない人はいないだろうけれども、あまりやってはいけないとお考えください。

原憲が更に聞きました。「克伐怨欲を抑えられる人は、仁者（徳のある人物）」と呼んでよ

いでしょうか」

孔子が答えました。「それだけでは難しい。克伐怨欲を制した人物が仁者かどうか、私は知らない。」

孔子が知らないと答えたのは、仁者とは知らず知らずの間に自然と徳が備わるものなので、自分の心の中にある欲や恨みを一生懸命抑え込んで、何とか人格を作っていくものではない。そういう人物はなかなかいないということです。

皆さんにお聞きします。西郷隆盛は素晴らしい人物だと伝わっていますが、産まれた時から徳のある人物だと思いますか？ それとも島津斉彬に見出され一所懸命勉強し、それで後世に伝わるような人格を造り上げたのだと思いますか？・・・皆さん後者に手を挙げました。私も同じです。

私の持っている西郷隆盛像は、算盤が達者で頭が切れて、細かい事にうるさくて目から鼻に抜けるような智恵者。そして身体はガリガリに痩せ細って、あばら骨が浮き出た人物というイメージがあります。世間一般に伝わっているイメージは、でっぷりして犬を連れた上野の西郷さんでしょう。それは人生の後半、世に名を遂げて、あとは自分の命を以て国のために尽くすのだと悟った頃です。私のイメージは、沖永良部島で見た西郷隆盛像です。島流しにされて、波しぶきの入って来るような岸壁の小屋で、ご飯に白湯を注いで塩をかけただけのような粗末な食事で、ガリガリに痩せ細っている像がありました。

西郷隆盛が目から鼻に抜けるような智恵者だったというのは、色々な本に出ていますから、どうぞお調べ戴きたいと思います。また、西郷隆盛には四人の女性（奥さん、奥さんに準ずる女性）がいたという話は以前致しました。

いずれにしても西郷隆盛は自分で徳のある人物になりたいと思って必死に努力して、歴史に残るような人格をつくり上げていったわけです。

ですから孔子が、徳のある人物とは努力しないでも自然とそうなるものだから、生まれついて徳のある人はなかなかいないと言ったのは当たり前だと感じます。

【三】子曰く、士にして居を懐うは、以て士と為すに足らず。

士とは、人格のある優れた人物です。

孔子が言うには、常に故郷を慕っているようでは、とても士とは言えない。素晴らしい人物は、故郷を懐かしく思ったりしない。

中国の歴史で名前の残っているような人たち、特に漢詩を作っている人などは、故郷を

慕うという詩が沢山あります。ですからここは、自然と批判・誹謗が入っていると感ぜま
す。

【四】子曰く、邦 道有るときは、言を危くして行を危くす。邦 道無きときは、行を危く
し言孫う。

孔子が言うには、道徳が行なわれている素晴らしい国であれば、正しい発言をして正し
い行動をなさい。国が不道徳であれば、自分を律する正しい行動をしてもよいが、発言
は慎重にしなければいけない。

今日の論語に関して、いくつか感じたことを申します。

「邦 道有る時（その国が良い国かどうか）」という部分を考えましょう。日本は世界の
国々から見て、素晴らしいと言われるような国になっているのでしょうか？ 私は甚だ心も
とない気が致します。

例えば日本は今、あちこちの国にばら撒き外交をしています。木内信胤先生は「援助と
いうのは侮辱です」と言っておられました。相手の国はお金を貰いたいために膝を屈する
わけですから。日本は、あちこちの国を侮辱して回っていると捉えるべきでしょう。

ばら撒き外交で酷いのは中国です。例えば中国が援助をして隣国にダムを建設する場合、
建築業者も労働者も丸ごと中国から送って、出来た電力のほとんどを中国に運んでしま
う。侮辱と同時に利益も吸い上げてしまうわけです。

日本の場合は侮辱外交もするけれども、その国のためになる動きもするので、日本の国
の方が良いという声がかんたん広がっているようです。今朝の新聞に、タイの高速鉄道事
業を日本の企業チームが受注したという記事がありましたが、やはり「行を危くす」の通
り、その国のためになる行動をすることがベースだと思います。

翻って会社の感覚でみましょう。最近、日本の大企業の役員には、1億円以上の年収を貰
う人達が出て来ています。果たして、その報酬に見合うだけの働きをしているのでしょ
うか？ そう思っていたら、東芝の粉飾決算です。自分たちの派閥争い、会社を食い物にし
ていることが表面化しました。こういう報道をみると、日本がまともな国で道徳が行き渡
っているとは言えないと感ぜます。それを構成している政府であるとか、各自治体、企業
体等々、それぞれがもう一度姿勢を正さなければいけない時期だろうと思ひます。

「邦 道無きときに穀するは恥なり」という部分を考えます。孔子は、自分のいる国が

不道德で駄目だと思ったら引退しなさいと言っていますが、孔子自身は引退せずに最後の最後までしかるべきポストに就きたいと足掻いて、どうにもならないと諦めて弟子を教育するという動きをしました。言う事とやる事が違いますが、孔子の場合そこが人間臭くて面白いと感じます。

また孔子の時代、中国の春秋時代は12の列国をはじめ多数の国がありますから、本国を出ても地続きで同じ言語の所に住むことが出来るわけです。ですから、不道德の国であれば亡命すればよいという孔子の台詞は、今の国と国という感覚では考えられません。

ちなみに洪澤栄一さんの『論語講義』の解説を見ると、孔子がこれだけ素晴らしい事を言い、子思という弟子は実際に素晴らしい出处進退をしているにもかかわらず、今の支那の体たらくはどうだ、正反対ではないかと評しています。

今の日本に徳の高い人はいるでしょうか？ 天皇陛下、皇后陛下は勿論、皇室の方々がそうでしょう。世界に皇室は27あるそうですが、その中でも日本の皇室は特に輝いていると感じます。日本に徳の高い方々がおられるということは素晴らしいと思います。残念ながらあとは内閣総理大臣以下、徳の高い人はいないように思います。

今回のオリンピック招致、国立競技場建設問題に関する対応の仕方をみても酷いですね。舛添都知事がマスコミに出て、今までやってきたことは何だったのかと批判と愚痴を言っています。舛添さんは一政治家ではなく首都東京を代表する人間なのですから、もう少し違うやり方をすればよいと思うのですが、これではどんどん徳を下げているようなものです。

もう一つ、終戦後マッカーサー元帥が吉田茂首相に面会した時、日本の将軍は何故これほど品格が落ちたのかと尋ねたという逸話が想起されます。その時、吉田茂さんは答えられなかったという話を、今まで何度か申しました。確認をすると、マッカーサーは若い時に日本に来ているのです。明治の日本は、縦の学問で自分自身を磨く、つまり日本の歴史・文化・哲学を身体に沁み込ませている人達が多かった。従って、肚の据わった将軍たちが多かったと、マッカーサーは身をもって感じていた。そしてある程度憧れの気持ちを持っていたのでしょう。しかるに今の将軍は何ということだ！という気持ちがあって、吉田首相に強い口調で聞いたのだと分かりました。そういう点から見ても今の日本は、マッカーサーが驚いた頃より、更に落ちていると言わざるを得ません。

余談ですが、最近ではアメリカで情報公開法によって戦後の様々な極秘資料が公開され、学者たちの手で多くの黒塗りの部分が明らかになっています。その中で、沖縄の本土復帰

に関して、新たな事実関係が分かって来ました。沖縄返還については、佐藤栄作首相がアメリカと交渉して核抜き本土並みで妥結をしたと語られています。しかしその時、アメリカは先に中国と交渉し、妥結をしていました。キッシンジャーが周恩来を訪問し、日本にあるアメリカの核を引き上げること、そしてアメリカ軍は日本へ駐留するが、それは決して中国を攻めるためではなく日本の暴走を抑えるためだと説明して、中国の了解を得ていたのです。それを受けて、アメリカは日本との交渉に臨んだのです。

もう一つ、アメリカ軍が日本に駐留するにあたって、心得のような資料が作られていました。そこには、沖縄はもともと独立国で、それを日本が自国に加えた経緯がある。従って沖縄は独立したいという意志を強烈に持っている地域であるから、それを踏まえて駐留すべし。つまり沖縄を一つの駒としてアメリカの為に活用しなさい、そして沖縄はそれを受け入れる素地がある、ということが書かれていた。こういう事実も分かっています。

更に、最後の詰めとしてニクソンが訪中し毛沢東と会談をした際、中国との友好関係を計りたいアメリカは、日本の駐留政策について中国はどうして欲しいのかを聞いて、中国の意向を尊重するつもりだったと云います。しかしその時、毛沢東は病気が相当悪化していて、身体もむくんで、それを隠すために特大の人民服を着て、やっと椅子に座っている状態でしたから、まともな話が出来なかった。日本を丸裸にするチャンスだったにもかかわらず、「そういう難しい話は止めましょう」と流してしまったのです。毛沢東はその4年後に亡くなりました。もしもその時、毛沢東が健康でいれば、今の日本のこういう状況はなかったかもしれない・・・という隠れた話が出てきました。

寝る時の確認

では、恒例の質問を致します。

○ 昨日一日、嘘をつかなかった方

皆さん手が挙がるようになりましたから、たまには違う嘘について考えてみましょう。仮に、交通事故で瀕死の重傷を負ったとします。私なら、お医者さんから「もう駄目です」とは言われたくはありません。「大丈夫、助かる」と周りの皆が嘘をついてくれることを望みますね。そういう嘘に出くわさないのが一番ですが、たまには良い嘘もあるということ

○ 昨日一日、良い日だったという方

○ 昨日一日、有難うと言い、有難うと言われた方

○ ここ最近、健康法を実践している方

50代後半になると、だいたいの方は体力に翳りを感じます。60代になると更に感じるよ

うになります。私は60代ですが、自分の身体を過信していてもやはり衰えているのですね。かつて出来たからといって今も出来るとは限らない、そういう体験を最近たくさんしています。くれぐれも自分の体力を過信せずに、自分にあった健康法を続けられると良いですね。特に歳をとったら足を鍛えると宜しいようです。

○ 昨晚、明日以降のことを過去形でイメージして寝た方

明日のことを過去形でイメージ出来る人がどんどん増えることを期待しています。そうなったら、もっと詳しいお話を申し上げます。

○ 最近、自分磨きをしている方

精神的なもの、体力的なもの、何でも結構です。自分磨きをして戴きたいと思います。

人類は自然の天敵

先日、木内孝顧問に季刊誌「知足」のインタビューをさせて戴きました。その中で、ローマ法王が出された回勅について伺いました。「今、地球はごみの山である」という書き出しで、地球温暖化について「最後の審判の日が到来する」と言われたそうです。法王庁が一年がかりで調べた180ページにわたる文書で、しかもローマ法王が、普通の演説ではなくて回勅という、日本では天皇陛下の詔勅にあたるような形で出した。それはとても重いものです、と木内顧問は言っておられました。更に、「世界中、特にキリスト教を信ずる人々に激震が走った」と各国のメディアがニュースで伝えたのに対し、日本ではほとんど伝えなかったとも言っておられました。

そういう機を捉えて木内顧問は、何とか地球・人類が存続できるように、世界各国から15人程度の知見を集めてディスカッションを計画しているそうです。私も誘って戴きましたので、検討しているところです。

また話の中で、環境問題について基本的な話は一致するけれども具体的な部分で意見を異にする方がおられる、という話を伺いました。文化人類学者の竹村真一さんという方で、台風や津波の発生メカニズムなどを視覚化したデジタル地球儀を開発されているそうです。ネットで調べて貰いましたら、3.11の津波が太平洋を呑み込むように広がる様子などがデジタル影像で見られて、大変インパクトがありました。竹村真一さんは環境問題を地球目線で考えようという主張をしています。例えば台風は、人間の目線で見ると厄介な現象ですが、海の底に沈んでいるプランクトンをかき回してくれるので、豊かな恵みをもたらしているというわけです。

木内顧問は常々、人間さえいなければ大気汚染や異常気象といった問題は起こらないのだから、人類は自然の天敵であると言っておられます。100年前17億だった人口は今、70

億人に増えている。人類が減びることが無いように、何とか地球に負荷をかけないような動きをしなければならないと活動しておられます。

一方、竹村真一さんの主張は、地球の度量は大きい、人間は生まれたばかりの未熟で、世界はまだ前進出来るというものです。土俵が違うのですから、ぶつかるのは仕方がないと思います。しかし私は、未熟が故に地球を滅ぼすこともあるのではないかと感じています。

この世は仮の姿

今日ご紹介する本は、『私の宗教観』（木内信胤著 プレジデント社）と『木内信胤語録』（三人会編 警備科学研究所）です。レジュメに木内信胤先生の言葉を書きました。

この世の中は仮の姿なんだから、仮の姿の世の中がなくなっても、一向に困らない。
仏教哲理を悟れば、ちっとも困らない。こういう心境におなりなさい。いつ日本の国がなくなっても、それは良かろうという気持ちにならないと、大事なことは考えられませんね。物欲にこだわっている間は、大事なことは分からない。

これは唯識学の分野です。今、皆さんはここに座っていますが、時間が経てばいなくなります。目の前に存在したものが、時間が経つと存在しなくなる。そこらへんを詰めていくと、この台詞になるのだと思います。

木内信胤先生は「今の世の中は仮の姿で、来世があると思う方が楽しくはないかい」と言っておられました。先生はご長男が亡くなる前に、あの世について一晩中語り明かしたと伺ったことがあります。この世の中は仮の姿だということが肚で分かったならば、それは仏教哲理を悟った、一切皆空（すべて、無から有が生ずる）を会得したことになる・・・そういう話をされたのではないかと思います。

日本という国がなくなっても困らない、地球上から人類がなくなっても困らない。そういう心境になると、その人物は素晴らしいということになりますし、国も素晴らしいということになります。

木内信胤先生のもの考え方、書籍をまた復活させようと思っています。『私の宗教観』『木内信胤語録』をどうぞご覧戴きたいと存じます。